

議 長 確認印	
------------	--

予算決算常任委員会会議録

1 開会の日時 閉 会	令和5年11月27日 10:00 令和5年11月27日 14:07 ※10:00~11:00 11:10~11:49 (説明終了) 13:10~14:03 (質疑 13:10~、説明員退席 14:03) 14:05~14:07
2 場 所	議場
3 出席した委員	吉田克則、鈴木茂、金澤太郎、菊地哲也、鈴木元久、吉村守広、七宮広樹、下重義人、吉田広明、青砥與藏、藤田一男、鈴木孝則
4 欠席した委員	なし
5 出席要求者	なし
6 職務出席者	議長、議会事務局長、書記
7 説 明 員	町長、教育長、総務課長、町民課長、健康福祉課長、農林推進課長 まち振興課長、まち整備課長、生活環境課長、会計管理者、財政係 長、学校教育課長、生涯学習課長、はなわこども園長、選挙管理委 員会書記長 (併)、農業委員会事務局長 (併)
8 付 議 事 件	第1 埴町振興計画案について
9 議事の経過	副委員長 (鈴木茂委員) 開会 委員長 (吉田克則委員) あいさつ 宮田秀利町長あいさつ 第1 埴町振興計画案について 委員長: (1) 財政状況及び財政見通しについて、総務課長へ説明を求める。 (総務課長が資料に基づき説明) 委員長: 質疑はあるか。ないので次に移る。 (2) 概算事業計画について説明を求める。 (所管課等の長が資料の説明) (説明終了後) 委員長: 質疑はあるか。 金澤太郎委員: 13 ページの小中学校タブレット更新、5 年程度経つので更新の必要があるだろうと思っはいるが、国県支出金が 1683 万円でその他財源が 5000 万円、その他財源の内訳を伺う。国県支出金は、これが果たして国県から出てくるものなのかどうなのか。前回導入時には、緊急的なこと含めてタブレット導入は喫緊の課題だということで国からお金が出てたと思うが今回果たしてこれが令和 7 年度でてくる見込みなのかどうか併せて伺う。

学校教育課長：説明の中でその他財源を説明するのが漏れていた。その他の財源は、交流施設等整備基金を予定している。また、国庫補助金の方だが、現段階では事業が継続されて申請すれば、国の予算の中での範囲内になるので確実ではないが事業としては認められる予定である。

金澤太郎委員：今の件は分かった。続いて、22 ページ・大項目 5 番、情報通信基盤の整備。昨年度というか今年度分からの振興計画の中の金額と随分変わってきてるところが説明あったが、やはり 5 年に 1 度の更新時期ということはお聞きかね聞いていて分かってはいるがそれが見落としだったのかどうかということと、更新料金が多分 2 年間で 6250 万円ほど出るということで、6000 万円を超える金額なので町財政にも影響を及ぼすことになってくる部分もあると思われる。ただ国県支出金も同じまではないですけど、同規模入っているの国主導による更新なのかどうかということと併せて伺う。

総務課長：1 番の基幹系システムの方だが、2 年度にわたって機器、情報機器更新が入っている。国県支出金が入っているということで、2 ヶ年にわたって 8 年度の差額分、その分が機器更新の工事ということで、国のお金が入ってるような形になっている。

下津義人委員：16 ページ (3) 消防体制の充実。去年も質問しているが、1 番のポンプ付積載車更新の件に関して、去年の振興計画をみると令和 5 年大蔵 4-4、令和 6 年 1-4 上渋井、令和 7 年が川上 3-3。去年の振興計画の話で、今年は大分また変わって、令和 7 年に水元 2-4、1-4 の上渋井が今度また遅れて令和 8 年となったわけだが、どういうふうになぜこう変わったのか。その前の年も変わって、ここ 3 年、振興計画が毎年変わっている状態である。

生活環境課長：小型動力ポンプ付積載車更新事業の件だが、定例議会の中でも消防団の再編の部分でご質問いただいているが、現在団長を中心に消防団の組織の見直しを行っている状況である。その組織の部分を見直しながら、適切な車両配置に努めたいと考えている。令和 6 年度については 1 年間をかけて、総合組織の見直しを実施し、7 年度 8 年度については、その見直しを受けて小型動力ポンプ付の積載車の配備等の計画を更新していきたいと考えている。なお運転免許の等の関係もあり、そのへんも含めて計画の見直しを行っている状況である。

下重義人委員：今年度は見直しということで、今回は予算化されていないが、来年以降とかがってというのは、その見直し、おそらく、アンケートも前質問した時に、アンケートも出してるような状態だということで各班の意見も踏まえて、それを参考によりよい計画を。また、毎年変わるような計画ではなく、遅れたら遅れるようなそういう答弁をしていただきたい。慎重によろしくお願いいたします。

生活環境課長：団長中心に組織再編見直しして、ご指摘のとおり計画を進めていきたいと思う。

七宮広樹委員：10 ページ (4) の高齢者の居場所づくりの 1 番、老人クラブ活動等社会活動推進事業補助金。埜町の老人クラブは、現在どれだけの老人クラブがあるのか。

健康福祉課長：現在の老人クラブは 6 団体。埜第一百寿会、上渋井百寿会、常世長生

会、台宿福寿会、伊香高砂会、植田長寿会。

七宮広樹委員：その6団体の老人クラブに対して、具体的にどのような補助、活動等を支えているのか。

健康福祉課長：単位老人クラブについては、会員数に380円をかけたもの。あと活動割で毎月2800円×12ヶ月ということで補助金を出している。その他に、老人生きがい事業補助金で定額の20万円。あと連合会へ15万円を補助し、そこから各単位クラブの方に補助が交付されている。

七宮広樹委員：次に18ページ(2)の関係人口の増進。1番の東京塙会活動事業で30万の計上がされているが、実際はどのぐらいの会員がいて、どのような活動をされているのか。

まち振興課長：正確な会員数は今ちょっと探しているところだが、活動としては、塙出身者でつくっている東京塙会に塙町に住んでいる人も入っていただこうということで、何人か塙町に今住んでいる方も加入をいただいている。活動としては、会報を出している。ふるさとツアーで湯遊ランドに泊まっていた。今年から地元の塙会に入った会員の人たちと交流をして、先日はどうやって塙町を盛り上げていくかというパネルディスカッションを実施した。そのほかに、年末にふるさと宅配便のようなもので、東京塙会の皆さんにはなわ物産の注文を取りそれをまとめて送り交流を進めている。

七宮広樹委員：情報発信というところで、これからもどんどんその形で、塙町をPRできるような形をとっていただければと思う。24ページの地域集会所トイレの更新事業だが、非常にありがたい事業なので、21ヶ所を3年間でやるということなのでぜひしっかりとやっていただきたいと思う。答弁は不要。

吉村守広委員：6ページ4番、森林環境譲与税事業。羽黒山の景観整備で2800万計上になっているが、継続事業ということで去年の振興計画では3000万、今年3000万使っているということだろうが現在の進捗状況は。それと7年度8年度と計上されているが、今後の予定・何年ぐらいまでかけてやる予定なのか。それと17ページ8番、代官所周辺景観整備事業だが、もう少し詳しい内容をお聞きしたい。

農林推進課長：羽黒山森林整備については、西側斜面約7ヘクタールにおいて、令和4年度中に意向調査、いわゆる森林の整備に関するアンケート調査を行った。その結果から、経営管理権集積計画を作成し関係者の同意を得た。経営管理権集積計画の公告縦覧が完了しましたので、令和6年度より森林整備に取り組む予定。令和6年度の2800万に関しては、森林整備の専用の予算ということで計上している。7年度8年度については、新たな計画を立てなければ整備ができないので計画ということで想定している。

まち整備課長：代官所周辺の景観整備事業だが、町道塙登記所線の南側にある更地と、あと空き家等が今現在ある。昨年的一般質問でもあったが、ここに子ども第三の居場所が建設されたので、あの辺一帯を民間の売買される前に町で買えるところから購入をしていきたいという計画を持ちたいと思っている。最終的には、面積がまと

まれば避難災害避難場所だったり、災害ごみの集積所だったり、埴代官にぎわい座の方たちとかが活動できるイベント広場。またあと道の駅とも近いということで、いろんなイベント催し物が、広場を各整備することによって、いろんな活用方法ができるのかなと思っている。まずは取り急ぎ、民間売買される前に取得できるところから来年から動きたいなということで令和6年度に計上した。

吉村守広委員：子ども食堂ができて、子どもたちがあそこの前の駐車場で遊んでいるというような状況なので、交通事故等の危険性もあるので、整備を早く進めてもらいたいと思う。とりあえずは、向かい側の空き地の取得という方向で考えているということか。

まち整備課長：土地を取得して、全体的な計画の中で町道の拡幅も実施したいと考えている。

鈴木茂議員：17 ページの出産祝金事業。1人15万円。50人程度の予算だが、子どもの場合は1人目2人目3人目と出産があるので、一律ということはないのかなと考える。2人目3人目は多く、1人目が10万円だったら2人目は20万円、3人目は30万円というような考えは持っているか。

まち振興課長：今のところ、要綱を整備するのに調整している段階。1人目・2人目・3人目も同じく15万円ずつということを考えている。要綱の中では、埴にどのぐらいいるかという、1日でもいたらとか里帰り出産だったらとか、そういったものも考慮しながら、今要綱を練っているところである。

鈴木茂委員：要望になるが、1人でも埴町の子どもが増えるようなそういう施策でお願いする。

吉田広明委員：16 ページ (2) の防災施設の充実。大規模盛土造成地第二次スクリーニング調査だが、現場はどこになるのか。

まち整備課長：上渋井、事象によっては西河内にもなるが上福沢の工業団地内になる。特定の場所については会社名も出てしまうので差し控えるが、埴林間工業団地内になる。

吉田広明委員：17 ページ 6 番目の子育て環境づくり遊具等整備事業。公園をつくるようなイメージか、それとどのような施設を考えているのか。

まち整備課長：広場も含めた形で、ある程度公園的な整備をしたいと考えている。そこに合わせて大型遊具を設置したいと思うが、場所については、町内設置したい箇所が多くあるが、今後、子ども世帯の方々が利用しやすいところで場所を選定したい。2年間ぐらいかけて場所選定をし、公園整備と大型遊具の整備ということで進めていきたいと考えている。

吉田広明委員：大子町の遊具施設というか公園があるが、同等まではいかなくても、ちょっと大きな施設、土地面積も含めてどういう構想なのか伺う。

まち整備課長：振興計画にもある、遊具設置3000万で計上させていただいている。

大子町の公園とか鶴子山もあると思うが、あの規模の公園をつくるとなると多分「億」かかると考えている。事業計画では3000万ということで、財源も含めて、そ

の辺は有利な財源を確保しながら、大きさについては当然お金もかかるということで、その辺はちょっと事業費と見極めながら整備を考えていきたいなと思っている。
委員長：4回目だが、吉田広明委員どうぞ。

吉田広明委員：最後になるが、場所の確定ということで伺うが19ページ11番で、道路整備事業、西河内塩沢線ということが載っているが、どのようなイメージで計画をしているのか。19ページ27番、橋梁改修工事の出戸1号橋は場所はどこになるのか。

まち整備課長：現在の西河内塩沢線は、北野松岡線の木材流通センターのT字路から起点であり、終点が国道289号線、川島屋の手前までが西河内塩沢線である。振興計画で載せた路線測量というのは、この起点から終点がおおよそ1.6キロメートルになる。工業団地の入口を過ぎるとカーブが連続している。この間を町の道路構想の中で、塙泉崎線の起点を118号にということで要望もしているが、それまでのことも想定した上で、北野松岡線から国道289号までをある程度カーブをなくして、幅員も広くした形で整備できないかということで、まずは令和8年度に路線測量を入れて、その後社総金で北野松岡線、松岡棚倉線ということで事業を進めているので、優先順位を決めて部分的に進めていければと考えている。

27番の出戸1号橋だが、これは町道湯沢線の林道豊田線の出口のところに最後橋がある。林道豊田線の間あたりに出る、最後橋がかかっているが、その出口の橋が一昨年上部工をやっている、下部工はまだレベル3の状態なので来年度下部工をやって終わりという形になる。

菊地哲也委員：10番議員の質問と関連するが、出産祝金50人となっているが、8ページ健康福祉課でやっている出産・子育て応援交付金事業。これは妊娠と出産合わせて10万ということで、だいたい金額見ると20人ぐらいかなと。結婚祝金も20組。出産祝金50人の詳細を。

まち振興課長：50人の根拠だが、新婚の方ばかりではなく出産なさる方は存在人数がいて思っている、50人というのは生まれるお子さんが50人と推計をしている。根拠は特に数式で出るものではなく、だいたい50人ぐらいではないかというふうに思っているところである。

菊地哲也委員：健康福祉課のだいたい20人という数の乖離、50人と20人の根拠をどちらかの課にお聞きする。

健康福祉課長：出産子育て応援交付金事業だが、令和5年の3月に予算議決いただき、その年は通知のみということで繰り越しで令和5年度から実際始まっている事業である。実績の数だが、令和4年の4月1日から遡及となっており、妊娠が47名、出産が21名ということで、今のところの実績はそうだが、振興計画上は年間、妊娠する方がだいたい30人ぐらいというふうに今まで来ているので30人ということと、出産についてはだいたい20、前年度の方と今年度の方合わせて算定している。

菊地哲也委員：移住定住の50名というその説明をお願いします。

まち振興課長：塙町の人口、人口が増えるのを期待している事業である。東京にある

ふるさと回帰センターの方で移住定住フェアをする。そのときに、埴町の特色として、医療費が無料であったりとかいろいろな特典があると思うが、新しく埴に夫婦で来て妊娠した人が来て、生まれる人、そういうのも、希望的観測だが見込んで多めの数で50人というところで今回振興計画を計上した。

菊地哲也委員：健康福祉課は実績の数、まち振興課は希望的数値ということで受け取る

鈴木孝則委員：5ページの林業振興で地域おこし協力隊活動事業、あと17ページの地域おこし協力隊事業とあるが、これは活動費と協力隊と別個にあるのか。それとも林業振興にあるということは、林業振興の方に1人か2人ということか。

13ページのタブレット12万円。立ち上げるぐらいは子どもたちにやらせたらいいでしょうとずっと言ってきたが、今回もこれは立ち上げ費用とかあとはソフトのインストールだとか、あとは本体、それを全部入れての12万円なのか。

16ページのJアラートだが、国と県が一体になっていたのを別々にするということが、気象警報とかサイレンも前ぶれなしで入ってくる。みんな何とかならないのかと言われている。Jアラートが別になれば、別系統になって、県の方の気象警報、それをワンクッション置いてできるのかどうか。

農林水産課長：地域おこし協力隊・林業の方に掲載している件は、林業に特化したという形で採用する予定である。これは令和4年度より引き続き町のホームページで募集しているところである。問い合わせ等が数件あるが、採用には至っていない状況である。

生活環境課長：Jアラートを福島県総合情報通信ネットワークの更新事業の関係だが、Jアラートのシステムについては国の制度上、6年度から受信ができないということで、アンテナの更新を含めて計画をしている。福島県の情報ネットワークの更新事業だが、機器更新は県主体の事業であり、詳細については今後県庁危機対策課と詳細を詰めて、分かり次第皆さんにお示ししたい。

学校教育課長：13ページのタブレット更新の12万円の内訳だが、機器の購入経費並びに機器にインストールをするソフト、それに伴う人件費、すべて含めた形で、手元に届いたときには普通に使えるような状態で、提供いただくような形で契約をする予定。

総務課長：Jアラートシステムについてお答えする。どうしても国から来る情報が迅速に流さなければならないということで、ミサイル攻撃であったりそういった気象警報がダイレクトに流れてしまう。町の方にも問い合わせがかなりきている。国の方には、ミサイルの場合はそんな猶予はないと思うが、気象警報であれば、ワンタイム何か挟んでくれないかというような要望はしている。ところが、なかなか改善されない状況である。今後も引き続き、国の方に要望していきたいと思っている。

鈴木孝則委員：タブレットの件だが、ICT教育っていうのは、やはり使うだけじゃないと思う。使えるまでにどうするかということも重要な教育だと思う。やはり自分でできることは自分でやらせると。そういう教育もこれから必要なのかなと思うので、

検討いただきたい。

学校教育課長：貴重なご意見大変ありがとうございます。子どもたちに学ばせることも大変大事だと思うので、検討させていただければと思う。

鈴木元久委員：23 ページ。下から 3 番目・役場庁舎改築事業。6 年度 7 年度で予算入っているが、総額でいくらなのか。

総務課長：継続費を組んでいるので、継続費の総額 18 億 6200 万。

鈴木元久委員：最初の予定額よりは超えてないということか。

総務課長：お見込みのとおりである。

藤田一男委員：18 ページの一番上・住宅団地整備事業。令和 7 年度から 8 年度にかけてあるが、これはどこのあたりに計画をしているのか、まだ決まっていないのか、その辺をお聞きする。それから 14 ページ一番下、向ヶ岡公園の整備事業ということで載っているが、桜は県の天然記念物になっている。県の補助はないのか。それから、同じく 14 ページ。地区館・体育館 LED 照明改修工事、埴町公民館・地区館・分館維持工事。前にも何回か言っているが、地区館には冷房がない。夏場暑くて使いづらい。ぜひ冷房を入れるような計画をしていただきたい。地区館はいろんな行政区に跨っている。ぜひ町の方で地区館ぐらいは冷房を入れていただきたいと思う。それからもう一つ、17 ページ・地域おこし協力隊事業。6 年度 8 名、7 年度 8 年度は 6 名。6 年度 8 名で 2818 万 7000 円。7 年度が 6 名で 2726 万 2000 円と 90 万ぐらいしか変わらない。2 人も減って 90 万しか変わらない。金額の設定はどのようになっているのか。

まち振興課長：6 年度につきましては、地域おこし協力隊、途中で入っている方がいる。12 分の 12 の人ではなく、12 分の 1 の人と 12 ヶ月分の 2 ヶ月という人がいるので、金額の方はそれで少ない金額になっている。

まち整備課長：住宅団地整備事業だが場所はまだ決まっていないので、昨年度から事業計画を見直しして、1 年先送りをし、さまざまな角度から検討を重ねたいと思っている。

生涯学習課長：向ヶ岡公園の補助金については、実際に指定となっているのは桜であり、その桜にかかる部分の補助金が該当になってくる。今回桜の木の根のさわる部分の石碑ということで、その部分の補助金は、県より令和 5 年度今年度について指定文化財保存活用事業補助金として 107 万円入ってくることになっている。6 年度の事業については、直接桜の影響の出ない部分の石碑の移設ということで補助対象外の部分の工事となっている。地区館の冷房関係だが、現在のところは、区で購入していただく、あるいは寄付で付けていただくということでこれまでできていた。今後については、検討課題とさせていただきたいと思う。

青砥與藏委員：18 ページ・新交通事業、グリーンスローモビリティだが、令和 7 年度 3670 万円。令和 8 年度に 770 万ということなので、きっと 2 台ということで、2 台いくらぐらいなのかわからないが、そして整備、充電・施設の整備などがかかってくる。そして、770 万円というのは人件費なのかなというふうに思うが。詳細を伺う。

まち振興課長：グリーンスローモビリティだが、今来ているグリーンスローモビリテ

ィは、パラリンピックオリンピック用の高い車両であり、この振興計画に挙げているのは、一番最初に春先に来たようなカートタイプのものである。1台400万とお聞きしている。2台で800万、急速充電ができる給電ポートが、車庫の上に太陽光パネルが付いているもの、これが2台分の大きさに2000万円。人件費が480万円。運転手の方の人件費、あと呼び出しシステムが200万円、メンテナンスが50万円、合計で3570万というふうに試算をしている。令和8年度になると、人件費とシステム等、メンテナンスのみになる。

青砥與藏委員：上段に公共交通対策事業ということで3800万あるが、どのような事業展開を考えているのか。

まち振興課長：今のところはまだ企画の段階であり、グリーンスローモビリティはラストワンマイル埴町にたどり着いたら町内の中は無料で巡回しているというような構想のもとに今回実証実験をしたところである。埴まで何で来るのかという話は、今までもそうだが、まだはっきりとした結論は出てないが、何がいいのかというのを他の地区もしくは福島交通でもお話しに来ていただいたときに、新しいテーマがあればお受けしたいといったことにも、どういった形態が埴町に合っているのか、お聞きしたいというところで今模索している最中である。グリーンスローモビリティが来たからバスが減るとかということではなくて、埴まで来てからの循環の形は今の実証実験の形という形態である。

青砥與藏委員：新しい新時代の交通網を構築したいという話であれば、費用対効果そういうことを考えれば、8年度からはこういうふうにしていきたいから3500万使っていきますよという話であれば見えるが。ただ、並行してこっちもあっちも予算を組むというのはちょっと違う。もう少し精査してほしい。

まち振興課長：グリーンスローモビリティの導入については、現在、秋の実証実験を行っている。その結果の検証をし、その体系でいいかどうかが決まってから購入するというので計画をしたということでご理解いただきたいと思う。

委員長：これで質疑を終わる。休憩する。

(説明員退席のための休憩)

委員長：休憩前に引き続き会議を開きます。次に(3)討議に移る。本計画案に意見のある方はいるか。

意見がないので、これで討議を終わる。

次にまとめを行うが、委員会の意見はなかったので、本計画は了解したということでご異議ないか。

(異議なしの声あり)

異議なしと認め、埴町振興計画は了解することとする。

なお、報告書の作成は委員長一任とさせていただきたいと思うが異議ないか。

(異議なしの声あり)

異議なしと認め、報告書は委員長において取りまとめする。

その他、委員の皆さんから何かあるか。

これで議事を終了する。
副委員長による閉会。

埴町議会委員会条例の第 27 条の規定により署名する。

令和 年 月 日

予算決算常任委員会委員長